ChemicalBook

安全データシート

塩化セチルピリジニウム

改訂日：2024-01-29　版番号：1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名	: 塩化セチルピリジニウム
CB番号	: CB0492441
CAS	: 123-03-5
同義語	: 塩化セチルピリジニウム

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: 医薬(殺菌消毒剤),医薬部外品添加物(化粧品等) (NITE-CHRIPより引用)
推奨されない用途	: なし

会社ID

会社名	： Chemicalbook
住所	： 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	： 010-86108875

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

(物化危険性及び健康有害性)

R5.3.31、政府向けGHS分類ガイダンス(令和3年度改訂版(Ver2.1))を使用 ※一部、ガイダンス(H22.7版) (GHS 3版, JIS Z 7252:2009)

物理化学的危険性

-

健康に対する有害性

急性毒性(経口)　区分3

急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)　区分2

皮膚腐食性/刺激性　区分2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性　区分1

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)　区分3(気道刺激性)

分類実施日

(環境有害性)

ガイダンス(H22.7版) (GHS 3版, JIS Z 7252:2009)

環境に対する有害性

-

GHSラベル要素

絵表示

どくろ　腐食性

GHS06	GHS09

注意喚起語

危険

危険有害性情報

飲み込むと有毒 吸入すると生命に危険 皮膚刺激 重篤な眼の損傷 呼吸器への刺激のおそれ

注意書き

安全対策

取扱い後は手をよく洗うこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。 【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

応急措置

飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。 特別な処置が必要である(このラベルの・・・を見よ)。 注) "..."は、ラベルに解毒剤等中毒時の情報提供を受けるための連絡先などが記載されている場合のものです。ラベル作成時には、"..."を適切に置き換えてください。 口をすすぐこと。 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 特別な処置が緊急に必要である(このラベルの・・・を見よ)。 皮膚に付着した場合:多量の水/石けん(鹸)で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 気分が悪いときは医師に連絡すること。

保管

施錠して保管すること。 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

廃棄

内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

他の危険有害性

情報なし

---

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
化学名又は一般名	: 塩化セチルピリジニウム
慣用名又は別名	: 1-ヘキサデシルピリジン-1-イウム=クロリド
英語名	: Cetylpyridinium chloride　1-Hexadecylpyridin-1-ium chloride
濃度又は濃度範囲	: 情報なし
分子式 (分子量)	: C21H38ClN (339.99)
CAS番号	: 123-03-5
官報公示整理番号(化審法)	: 5-3686、9-1979
官報公示整理番号(安衛法)	: 8-(1)-1532
GHS分類に寄与する成分(不純物及び安定化添加物も含む)	: 情報なし

4. 応急措置

吸入した場合

新鮮な空気のある場所に移動させる。呼吸困難な場合は酸素吸入をさせる。呼吸が止まっている場合は人工呼吸を行う。医師の診察/手当てを受けること。

以上、GESTIS参照。

皮膚に付着した場合

汚染された衣服を脱がせる。皮膚に付着した部分を流水で10~20分洗浄する。医師の診察を受けること。

以上、GESTIS参照。

眼に入った場合

できるだけ早く、流水で10分間洗浄する。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、洗浄を続けること。医師の診察/手当てを受けること。

以上、GESTIS、GHS分類結果参照。

飲み込んだ場合

口をすすぐ。少量の水を飲ませる。無理に吐かせない。医師の診察/手当てを受けること。

以上、GESTIS参照。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

吸入:鼻/喉の刺激/炎症、唾液と粘液の強い分泌、咳; 特に喘息患者の気管支収縮、肺損傷の危険性と生命を脅かす全身的影響 。

皮膚:濃度により、発赤、腫脹、水疱形成から腐食までの可能性。

眼:灼熱感、発赤、腫脹、流涙、結膜炎から重度の腐食性障害の可能性。

経口摂取:吐き気、嘔吐(誤嚥の危険性!)、腹痛、下痢; 粘膜への腐食による刺激(食道/胃の穿孔/潰瘍の危険性)。

吸収:血圧低下から虚脱、心機能障害、筋弛緩(クラーレ様作用、場合によっては急速な麻痺の兆候)、中枢神経系障害(意識喪失、昏睡、痙攣)により急性の危険性。

以上、GESTIS参照。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

情報なし

医師に対する特別な注意事項

情報なし

---

5. 火災時の措置

適切な消火剤

水噴霧、粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素 以上、GESTIS参照。

使ってはならない消火剤

棒状注水 以上、GESTIS参照。

火災時の特有の危険有害性

火災の場合、有害物質(亜硝酸ガス、塩化水素、一酸化炭素、二酸化炭素)が放出される可能性がある。 以上、GESTIS参照。

特有の消火方法

可能であれば、容器を危険区域外に持ち出す。着火源となるものを遮断する。 以上、GESTIS参照。

消火を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業の際は、適切な自給式の呼吸器用保護具、眼や皮膚を保護する防護服 (耐熱性) を着用する。

---

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

周囲に注意喚起し、避難させる。漏出区域に入るときは保護具を着用すること。

以上、GESTIS参照。

環境に対する注意事項

水域に対する危険性は大きい。地面や河川、下水への流出を避ける。少量でも流出した場合は、自治体に連絡する。

以上、GESTIS参照。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

粉じんが発生しないように回収する。その後、換気し漏出個所を洗浄する。

以上、GESTIS参照。

二次災害の防止策

情報なし

---

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

安全取扱注意事項

容器を開けたままにしない。粉じんの発生を避ける。使用時は十分な換気をすること。

以上、GESTIS参照。

接触回避

「10. 安全性及び反応性」を参照。

衛生対策

皮膚や眼への接触を避ける。接触した場合は洗浄する。休憩前や作業終了時には石鹸と水で皮膚を洗い、洗浄後は脂肪分の多いスキンケア製品を塗布する。使用するときには飲食、喫煙をしないこと。

以上、GESTIS参照。

保管

安全な保管条件

施錠して保管するか、権限のある者のみが管理する。容器を密閉して乾燥した室温の換気の良い場所に保管すること。

以上、GESTIS参照。

安全な容器包装材料

国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

---

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

未設定

許容濃度等

日本産衛学会(2022年版)

未設定

ACGIH(2022年版)

未設定

設備対策

作業場所には適切な局所排気装置等を設置する。取り扱い場所の近くに洗浄のための設備を設ける。床に排水溝を設けないこと。 以上、GESTIS参照。

保護具

呼吸用保護具

緊急時(例:意図しない物質の放出)には、呼吸保護具を着用する。 作業者が粉じんにばく露される場合は呼吸保護具(防じんマスク等)の着用を検討する。 防じんマスクの選択については､以下の点に留意する。 -酸素濃度が18%未満の場所では使用しない。また、有害なガスが存在する場所においては防じんマスクを使用せず、その他の呼吸用保護具の利用を検討すること。-防じんマスクは、日本工業規格(JIS T8151)に適合した、作業に適した性能及び構造のものを選ぶ。その際、取扱説明書等に記載されているデータを参考にする。以上、GESTIS参照。

手の保護具

保護手袋を着用する。ニトリルゴムが適していると考えられる。 以上、GESTIS参照。

眼の保護具

化学用安全ゴーグルを着用する。 以上、GESTIS参照。

皮膚及び身体の保護具

必要に応じて適切な保護衣または化学防護服を着用する。 以上、GESTIS参照。

---

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

物理状態	固体 (20℃、1気圧) (GHS判定)
色	白色
臭い	特徴的な臭気
データなし	
234 ℃(GESTIS(2022))	
5.0-5.4(GESTIS(2022))	
データなし	

水: 111 g/L(20℃、1水和物)(GESTIS(2022))

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

80~83 ℃(1水和物)(GESTIS(2022))

融点/凝固点

80~83 ℃(1水和物)(GESTIS(2022))

沸点、初留点及び沸騰範囲

データなし

可燃性

データなし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界

データなし

引火点

データなし

自然発火点

データなし

分解温度

234 ℃(GESTIS(2022))

pH

5.0-5.4(GESTIS(2022))

動粘性率

データなし

溶解度

水: 111 g/L(20℃、1水和物)(GESTIS(2022))

n-オクタノール/水分配係数

データなし

蒸気圧

データなし

密度及び/又は相対密度

データなし

相対ガス密度

データなし

粒子特性

データなし

---

10. 安定性及び反応性

反応性

「危険有害反応可能性」を参照。

化学的安定性

情報なし

危険有害反応可能性

火災の場合、有害物質が放出される可能性があります。亜硝酸ガス(一酸化窒素)、塩化水素、一酸化炭素

避けるべき条件

情報なし

混触危険物質

酸化剤

危険有害な分解生成物

亜硝酸ガス(一酸化窒素)、塩化水素、一酸化炭素

---

11. 有害性情報

急性毒性

経口

【分類根拠】

(1)~(3)より、区分3とした。旧分類から新たな情報源が追加されたことに伴い、急性毒性(経口)項目を見直したが分類結果に変更はない(2022年度)。

【根拠データ】

(1)ラットのLD50:200 mg/kg(HSDB in PubChem (Accessed Sep. 2022))

(2)ラット(雌)のLD50:50~300 mg/kgの間(OECD TG 420)(AICIS Evaluation Statement (2021))

(3)ラット(雌)のLD50:560.3 mg/kg(OECD TG 425、GLP)(AICIS Evaluation Statement (2021)、REACH登録情報 (Accessed Sep. 2022))

経皮

【分類根拠】

(1)、(2)より、区分に該当しない。なお、新たな知見に基づき分類結果を変更した。旧分類から新たな情報源が追加されたことに伴い、急性毒性(経皮)項目を見直したが分類結果に変更はない(2022年度)。

【根拠データ】

(1)ラットのLD50:> 5,000 mg/kg(OECD TG 402、GLP)(AICIS Evaluation Statement (2021)、REACH登録情報 (Accessed Sep. 2022))

(2)ウサギのLD50:7,750 mg/kg(REACH登録情報 (Accessed Sep. 2022))

吸入: ガス

GHSの定義における固体である。

吸入: 蒸気

データなし。

吸入: 粉じん及びミスト

【分類根拠】

(1)より、区分2とした。旧分類から新たな情報源が追加されたことに伴い、急性毒性(吸入)項目を見直したが分類結果に変更はない(2022年度)。

【根拠データ】

(1)ラットのLC50(粉じん):0.054 mg/L(OECD TG 403、GLP)(AICIS Evaluation Statement (2021)、REACH登録情報 (Accessed Sep. 2022))

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

【分類根拠】

(1)より、区分2とした。なお、新たな知見に基づき、分類結果を変更した(2022年度)。

【根拠データ】

(1)ウサギ(n=3)を用いた皮膚刺激性試験(OECD TG 404、GLP、半閉塞、4時間適用、14日観察)において、24時間後に全例で重度の紅斑及び軽度の浮腫がみられ、次第に刺激性反応は弱まったが、影響は全例で14日後まで持続した。皮膚一次刺激指数(PDII)は4.9であったとの報告がある(REACH登録情報 (Accessed Sep. 2022))。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

【分類根拠】

(1)より、区分1とした。なお、新たな知見に基づき、分類結果を変更した(2022年度)。

【根拠データ】

(1)ウサギ(n=3)を用いた眼刺激性試験(OECD TG 405、GLP、14日観察)において、点眼後、全例で重度の角膜混濁、虹彩炎及び結膜炎がみられ、試験は4日後に打ち切られた。急性眼刺激指数(AOI)は86.7(区分1相当)であったとの報告がある(REACH登録情報 (Accessed Sep. 2022))。

呼吸器感作性

データなし。

皮膚感作性

データなし。

生殖細胞変異原性

データなし。

発がん性

データなし。

生殖毒性

データ不足。なお、妊娠初期3カ月間に本物質による薬物治療を受けた292人の女性に9件の奇形が見つかり、先天異常の割合は0.3%であった。非投薬での奇形平均値は0.16%で、この増加は統計学的に有意ではなかった(HSDB(2003))との情報がある。

---

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)

データなし。

水生環境有害性 長期(慢性)

データなし。

残留性・分解性

情報なし

生態蓄積性

情報なし

土壌中の移動性

情報なし

オゾン層への有害性

当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

---

13. 廃棄上の注意

化学品(残余廃棄物)、当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

---

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号

2811

品名(国連輸送名)

その他の毒物(有機物)(固体)、n.o.s

国連分類

6.1

副次危険

-

容器等級

Ⅱ

海洋汚染物質

該当しない

MARPOL73/78附属書Ⅱ及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質

該当しない

国内規制

海上規制情報

船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報

航空法の規定に従う。

陸上規制情報

該当しない

特別な安全上の対策

該当しない

その他 (一般的) 注意

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。

緊急時応急措置指針番号*

154

---

15. 適用法令

労働安全衛生法

労働安全衛生法に基づくラベル表示・SDS交付の義務化候補物質リスト(令和5年)

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

該当しない

毒物及び劇物取締法

該当しない

船舶安全法

毒物類(危規則第3条危険物告示別表第1)

航空法

毒物類(施行規則第194条危険物告示別表第1)

港則法

その他の危険物・毒物類(毒物)(法第20条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)

---

16. その他の情報

略語と頭字語

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

IATA:国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

LC50: 致死濃度 50%

LD50: 致死量 50%

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

STEL: 短期暴露限度

TWA: 時間加重平均

参考文献

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト https://www.mhlw.go.jp

【2】化学物質審査規制法(化審法)https://www.env.go.jp

【3】化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) https://www.chemicoco.env.go.jp

【4】NITE化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP)https://www.nite.go.jp/

【5】カメオケミカルズ公式サイト http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple

【6】ChemIDplus、ウェブサイト http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp

【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト https://echa.europa.eu/

【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイトhttp://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request_locale=en

【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイトhttp://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg

【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイトhttp://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp

【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm

【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト http://www.iarc.fr/

【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイトhttp://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home

【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト https://www.sigmaaldrich.com/

免責事項:
本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。